

平成27年度全国学力・学習状況調査結果について

H27.8.25 秋田県教育委員会

概 観

○平成19年度以降、連続して大変良好な状況にあるという結果を得ることができた。その要因は、家庭・地域・学校・大学等のオール秋田でつくってきた、本県の財産とも言えるすばらしい教育環境の下で成し遂げた成果であると捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・家庭や地域の教育力と協力

○県教育委員会では、今回を含めた8回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校が実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。

○データを個別にみると課題もある。今後、検証改善委員会を立ち上げ、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について詳細な分析を進め、各学校における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていく。

○今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

○本年度の調査は、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象として、3年ぶりに理科を加えて実施された。県教育委員会では、インターネット上で自己採点結果の集計・分析をするためのシステムを構築し、各学校に提供している。既に、各学校においては自己採点を進め、自校の課題を明らかにして、その改善に向けて取り組んでいるところである。また、本調査を受けた学年の児童生徒に対しては、個々の課題となっている部分をできるだけ早く解決した上で、当該学年の学習内容を定着させることが大切であり、9月以降、その改善の方策を一層具体化して取り組むことになる。

○県教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて成果と課題を明確にし、調査の活用による指導の改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを確立し、推進していく。具体的には、全国学力・学習状況調査で課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握していく。さらに、高校入試においても、「基礎的・基本的な知識・技能の活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 本県の平均正答率は、小学校・中学校ともに全ての教科で全国平均を4ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小学校の国語、算数、中学校の国語、理科では全ての問題において、小学校の理科、中学校の数学ではほとんどの問題において、本県の平均正答率は全国の平均正答率を上回っている。
- 課題として取り組んできたB問題については、A問題よりも平均正答率で全国状況を上回る傾向が続いており、「知識・技能等の活用」に重点を置いた授業改善が進められている。
- 正答数分布は、全国に比べ正答数の多い層が厚く、反対に正答数の少ない層は薄くなっている。
- 無解答率は、小・中学校ともに、国語、算数・数学、理科のほぼ全ての問題で全国平均を下回っている。
- 全ての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図る必要がある。

小学校6年生平均正答率

() は全国との差

教科	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	76.0 (+6.0)	77.4 (+4.5)	71.7 (+9.0)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	76.4 (+11.0)	67.3 (+11.8)	59.1 (+9.7)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	81.2 (+6.0)	85.1 (+7.0)	82.8 (+5.6)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	51.5 (+6.5)	66.2 (+8.0)	67.1 (+8.7)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理科	66.7 (+5.9)			68.4 (+7.5)				

中学校3年生平均正答率

() は全国との差

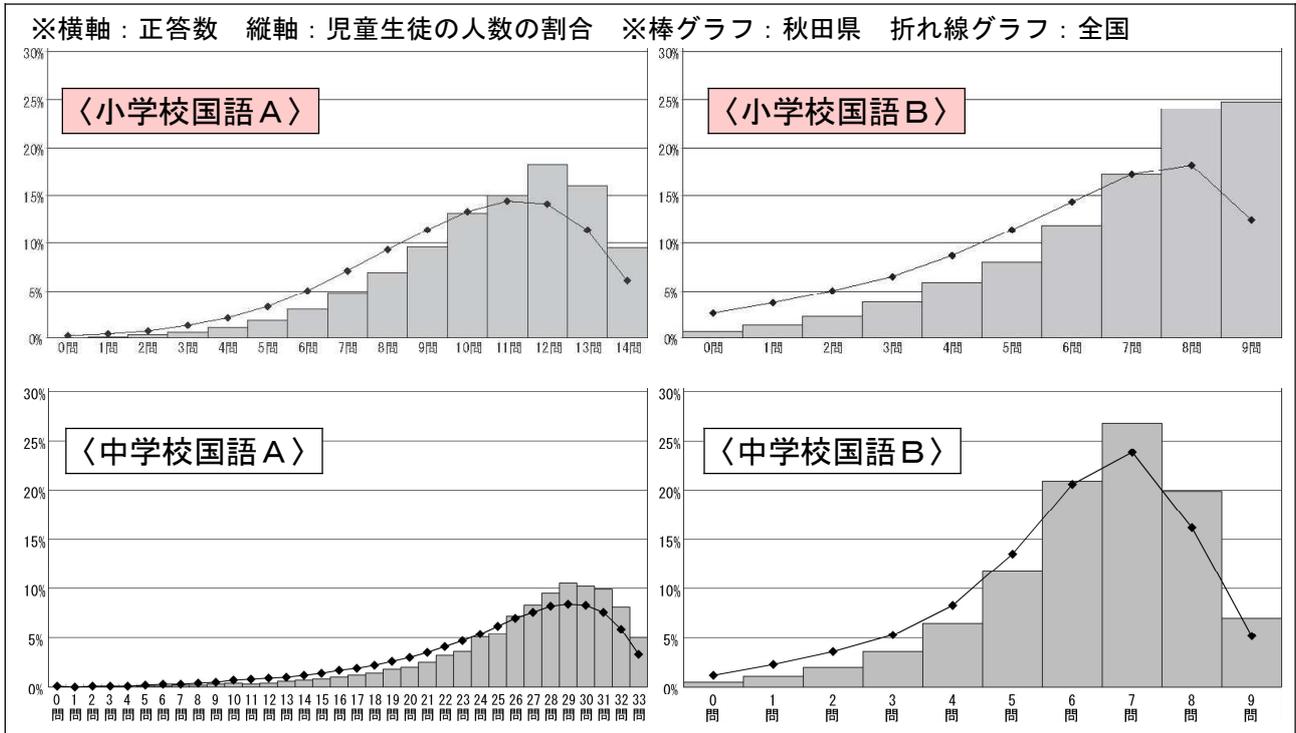
教科	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	80.8 (+5.0)	84.4 (+5.0)	81.9 (+5.5)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	70.7 (+4.9)	55.8 (+4.8)	74.6 (+7.2)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	68.4 (+4.0)	73.0 (+5.6)	68.9 (+5.2)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	46.9 (+5.3)	65.5 (+5.7)	47.5 (+6.0)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理科	59.6 (+6.6)			56.1 (+5.1)				

* 平成24年度、平成22年度については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されていますが、この表の数値はその区間の中央値を示しています。

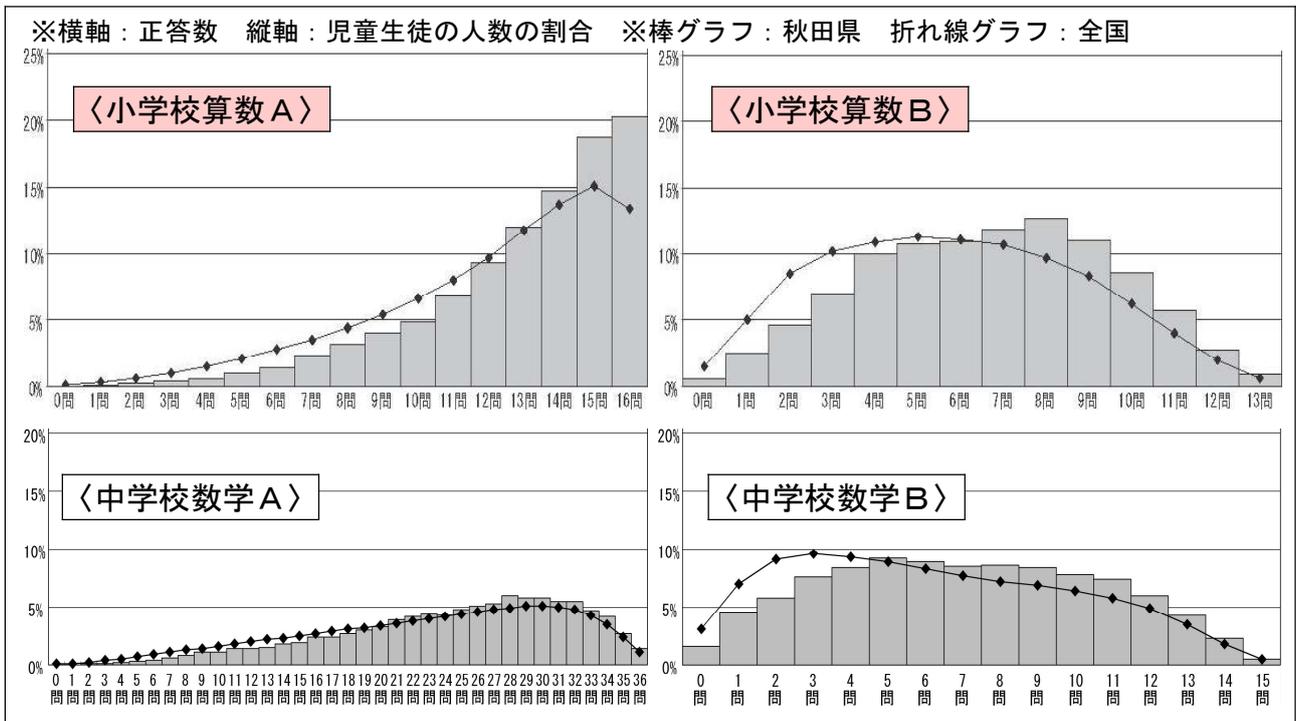
◆ 正答数分布グラフ(正答した設問の数と児童生徒の人数の割合を示したグラフ)

秋田県は全国よりも正答数の多い児童生徒の人数の割合が高い。

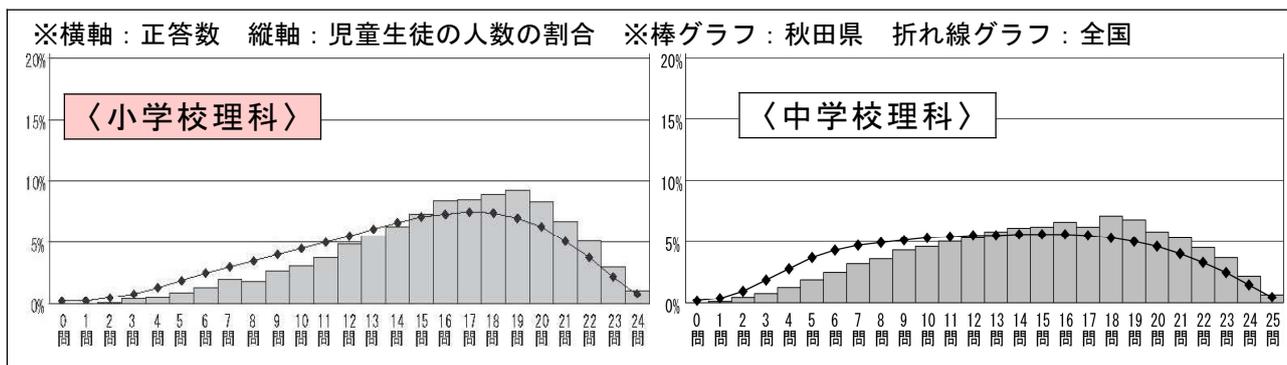
【国語】



【算数・数学】



【理科】



各教科の成果と課題

【国語】

- 平均正答率は、小・中学校とも4ポイント以上、特に小学校Bでは11ポイント以上、全国を上回っている。
- 記述式の問題の平均正答率は、小学校Bで15ポイント以上、中学校Bで5ポイント全国を上回っている。
- 小・中学校とも、文章と図を関係付けたり、多様な情報を関連付けたりしながら自分の考えを書くことに課題がある。
- ことわざや慣用句を含め、語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使うことについては、依然として課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率(%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	A5二	24.5	19.8	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える。
	B1三	53.3	34.7	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く。	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。
	B2三	59.1	41.6	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く。	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く。
中学校	A9三才	49.0	49.0	適切な語句を選択する。(たなびく雲の間から、春の光がもれている)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
	B2三	28.6	23.0	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていききたいか、自分の考えを書く。	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。
	B3三	36.5	31.1	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く。

【算数・数学】

- 平均正答率は、小学校で6ポイント以上、中学校で4ポイント以上、全国を上回っている。
- 知識に関する問題（A問題）は、小学校では「数と計算」の領域で、中学校では「関数」の領域で、正答率が全国を大きく上回る問題が多い。
- 活用に関する問題（B問題）は、中学校の「記述式」の問題で、正答率が全国を大きく上回る問題が多い。特に、文字を利用して、整数の性質について予想した事柄を説明する問題の正答率が、10ポイント以上全国を上回っている。
- 算数では、円の性質を用いて他の図形と関連付けて考えることや、割合の意味を理解して比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。
- 数学では、簡単な文字式の計算が確実にできることや、割合の意味を理解して文字式に表すこと、表や式から2つの数量がどのような関係にあるかを判断することに課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率(%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 5 (1)	55.7	50.6	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ。	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる。
	B 2 (2)	17.1	13.1	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く。	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる。
	B 4 (3)	25.8	22.3	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く。	概数を用いた見積り結果とそれに基づく判断を理解して、3000個集めればよい理由を記述できる。
中 学 校	A 2 (1)	84.3	85.3	$5x - x$ を計算する。	一次式の減法の計算ができる。
	A 2 (2)	23.5	22.2	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す。	数量の関係を文字式に表すことができる。
	B 6 (1)	44.3	46.5	中心角の大きさ x と半径の長さ y の間にある関係について、正しい記述を選ぶ。	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる。

【理科】

- 平均正答率は、小学校で5ポイント以上、中学校で6ポイント以上、全国を上回っている。
- 問題の枠組みごとの平均正答率は、「知識」に関する問題で6ポイント以上、「活用」に関する問題で5ポイント以上、全国を上回っている。
- 観察・実験の結果について示した表やグラフを基に考察したり、分析し解釈して規則性を見いだしたりすることに課題がある。
- 小学校では、観察・実験に用いる器具の操作技能に関する知識の定着に課題がある。中学校では、予想や仮説を検証するための実験を適切に計画することに課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率(%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	2 (4)	41.6	37.9	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ。	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている。
	3 (6)	35.3	28.9	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く。	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる。
	4 (3)	54.3	55.3	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ。	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている。
中 学 校	1 (2)	35.6	32.6	同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ。	実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる。
	4 (1)	46.3	43.7	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ。	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる。
	6 (2)	33.7	29.9	音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ。	音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる。

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 全体として、望ましい生活習慣及び学習習慣が定着していると考えられる。
- 児童生徒が主体的・協働的に学ぶことができるよう、児童生徒が学習の目標（めあて・ねらい）を基に自分たちで課題を立てる、課題の解決に向けて話し合っ
て考えを深めたり広げたりする、授業の最後に学習内容に関するまとめ等をノート
に書くなどの活動を取り入れている。
- 児童生徒が自己肯定感を高め、自分の進路や未来を考える指導が充実している。

本県の結果（％）と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	85.5	+ 6.0	81.1	+ 5.9
活	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	93.7	+ 2.7	94.5	+ 2.4
習	◎平成19年度から連続して90%以上を示している主な項目				
慣	・朝食を毎日食べている。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。				
学	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、 1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上)		(1時間以上)	
習		96.4	+ 8.6	80.7	+11.7
習	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	82.8	+20.0	65.4	+16.6
慣	家で学校の授業の復習をしていますか。	90.2	+35.7	87.2	+35.2
授	前学年までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	87.9	+13.7	83.1	+17.4
	前学年までに受けた授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	93.2	+ 8.0	92.2	+14.0
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	79.0	+12.1	77.1	+14.2
	前学年までに受けた授業では、授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。	96.7	+ 9.6	94.2	+20.5
業	前学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	90.5	+15.2	85.3	+26.0
業	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	74.7	+13.5	71.2	+17.2
	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	91.8	+ 8.0	86.8	+ 6.2
	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	82.9	+13.6	62.0	+15.1
そ	自分には、よいところがあると思いますか。	84.8	+ 8.4	78.8	+10.7
他	将来の夢や目標をもっていますか。	92.2	+ 5.7	80.2	+ 8.5

学校質問紙調査の結果

◆ 概 要

- ほとんどの学校が一斉読書の時間を設定し、読書の習慣化に向けて取り組んでいる。
- 授業において、自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている割合が全国を大きく上回っている。
- 国語では目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を、理科では実生活における事象との関連を図った授業を行っている割合が全国を上回っている。算数・数学では、ティームティーチングによるきめ細かな指導を行っている割合が、小・中学校ともに全国を大きく上回っている。
- 教科の指導内容や指導方法に関して、小学校と中学校が連携した取組を行っている割合が、全国を大きく上回っている。
- ほとんどの学校が、教職員の共通理解の下、学校全体の取組として家庭学習の充実を図っている。
- ほとんどの学校で、学校全体の言語活動の実施状況や課題について全教職員が共通理解し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に向けて取り組んでいる。
- ほとんどの学校で、将来就きたい仕事や夢について児童生徒に考えさせる指導を行っており、特に小学校の実施の割合は、全国を大きく上回っている。

本県の結果（％）と全国との差（「よく行った」「どちらかといえば行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。	(週に1回以上) 97.2	+ 6.1	(週に1回以上) 92.3	+ 9.7
前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。	89.7	+16.7	81.4	+18.1
国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。	97.7	+ 8.4	91.5	+ 8.3
算数・数学の授業において、前年度に、ティームティーチングによる指導を行いましたか。	81.8	+17.1	82.2	+25.2
理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	88.7	+ 8.7	94.1	+ 6.0
前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(国語／算数・数学共通)	97.7	+10.6	90.7	+12.2
教科の指導内容や指導方法について近隣の学校と（小学校においては中学校と、中学校においては小学校と）連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか。	79.8	+13.1	88.1	+12.6
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。	97.7	+ 9.1	91.6	+14.0
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	92.1	+19.7	97.5	+ 1.1

全国学力・学習状況調査の活用

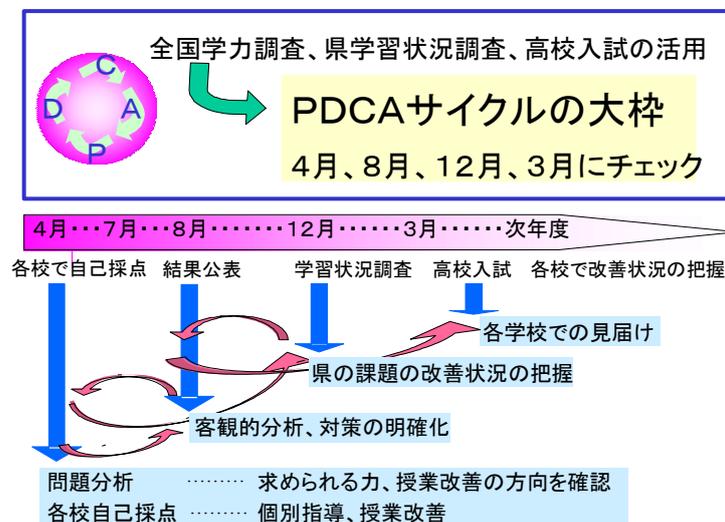
◆ 概要

- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、成果や課題を学校全体で共通理解している。
- 保護者や地域の人たちに対して、調査結果について公表や説明をしたり、学力向上の取組について働きかけを行ったりしている学校の割合が、全国を大きく上回っている。
- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の結果を県の独自の学力調査の結果と併せて分析している。

◎学校質問紙調査結果（％）より（「よく行った・行った」と回答した割合）

質問項目	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか。	99.1	+ 1.0	99.1	+ 2.2
平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	98.1	+ 2.3	97.4	+ 4.2
平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）	97.1	+ 9.1	92.3	+ 8.4
平成26年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	96.2	+ 8.8	92.3	+11.8
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	98.6	+ 6.7	97.5	+ 9.6

- 県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立を推進し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていきます。



県教育委員会の取組について

☆学力向上関連事業等

◆これまでの事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査事業（H14～）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」（H27～）
- 小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～23）
- 小・中連携いきいきスクール事業（H24、25）
- 小学校外国語活動教員研修事業（H21～25）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～22）
- 学力向上推進事業（H23～）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～24）
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成（H24）

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第5学年まで拡充
- 小・中連携実践研究モデル事業
 - ・小規模小学校（児童数90人未満で6、7学級程度）を含む中学校区の中学校へ臨時講師を1名配置
- 学力向上推進事業
 - (1)学習状況調査事業
 - (2)あきたの教育力充実事業
 - ①学力向上支援事業
 - ・教科指導CT（中核教員）養成研修会
 - ・学校訪問指導
 - ・学力向上支援Web活用
 - ・科学の甲子園ジュニア秋田県大会（生徒対象 平成27年8月8日）
 - ・理数探究体験セミナー（児童生徒対象 平成27年8月20日～22日）
 - ②あきたの教育力発信事業
 - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
 - ・学力向上フォーラムの開催（平成27年10月3日 鹿角市・小坂町）
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会、キャリア教育推進協議会の実施
 - ・わか杉県政体験（平成27年8月7日）
- あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業
 - ・小・中・高の連携により、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成を目指す



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉
- 三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなのでつくる未来の秋田








※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

秋田わか杉 スキッチ

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

平成27年度、県教育委員会では“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）において、全国トップレベルを維持している本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目されることとなりました。

第2期あきたの教育振興に関する基本計画を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問紙調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。